

今回は、西区の市立栄小学校の取組を御紹介します。

栄小学校では、地域の方々の御協力のもと、様々な活動に取り組んでいます。



【さくら草】

＜地域と栄小学校をつなぐ「さくら草ボランティアの会」＞

3・4年生と栽培委員会は、地域の花「さくら草」の栽培活動を行っています。その栽培活動を見守りながら手助けしてくれているのが、「さくら草ボランティアの会」の皆様です。

錦乃原さくら草を芽から栽培する活動は、ボランティアの協力なしでは成り立ちません。芽分け・植え付け・日常的な栽培作業・児童の栽培活動の手助けなどが、年間を通して行われます。

春4月に開催される「栄小さくら草を楽しむ会」は、多くの地域の方々が観賞に来校します。また、近隣幼稚園児を招待し、児童が栽培したさくら草を楽しんでいただいています。

＜地域の伝統芸能にふれる「おはやし体験」＞

3年生が総合的な学習の時間に、地域の佐知川上囃子連の皆様のご指導を受け、地域に伝わる伝統芸能お囃子を学習しています。「踊り」と「太鼓」のグループに分かれ、「踊り」のグループは、手ぬぐい・手踊り・扇子と「ひょっこ」のリズムに合わせ踊りを習います。「太鼓」のグループはタイヤ叩きから始め、リズムを覚え左右の手を使い分け叩きます。

発表会では地域の方々・保護者・児童たちの前で、囃子連の方々のすりがねと笛に合わせて太鼓を叩き、頭巾・はっぴ・ひょっこのお面姿になり踊りを披露します。これからも地域とのつながりを深め、伝統芸能を守ります。



【おはやし体験】

＜自然いっぱい「樹木診断体験」土曜チャレンジスクール＞

栄小学校は、敷地内に多くの樹木・草花・湧き水の流れる「なかよし川」などを有する自然環境豊かな学校です。昨年度、土曜チャレンジスクールでは、さいたま市造園業協会の協力を得て、「樹木診断体験」をしました。

当日は、室内で樹木医の先生から木々や土壌について学習し、その後けやきの「樹木音波診断体験」をしました。音波を使った樹木診断に児童たちは興味津々でした。栄小学校の樹木や土壌について学び、自然環境の大切さを知るよい機会となりました。



【樹木診断体験】

栄小学校の取組からは、児童が地域の方々に見守られながら、地域の自然や伝統文化等に触れることで、地域への愛着を深めている様子が伝わってきます。

今回は、中央区の市立与野八幡小学校が行った令和元年度の取組を御紹介します。
与野八幡小学校では、地域の方々に御協力いただきながら、様々な活動に取り組んでいます。

〈ふるさと与野の食文化「朝まんじゅう」作り〉



【親子でクッキング】

寒い冬を元気で過ごすためには、食事も大切な要因です。そこで、土曜チャレンジスクールにおいて、講師に「ふるさと与野の生活文化を楽しむ会」の方を迎え、親子でクッキングを楽しむ機会を設けています。民生委員、児童委員、主任児童委員の地域の皆様にお手伝いをいただき、調理の合間には「子育て相談」も実施しています。

つぶあんといもあんの「朝まんじゅう」と、まんじゅうの表面に赤飯をまぶした「いがまんじゅう」を親子で作リ、与野八幡小学校のキャラクター「はちばん」の焼印を押して完成です。できあがったおまんじゅうを食べながら、地域の歴史と文化のお話や昔の暮らしのお話を聞き、心も体も温まる豊かな時間を過ごしました。

〈「走り方教室」と「逃走中！」〉

土曜チャレンジスクールにおいて、「走り方教室」とテレビ番組の企画を参考にした鬼ごっこのような活動「逃走中！」を、県立与野高校陸上部の高校生を迎えて行っています。

「走り方教室」では、コーンやハードルを使って足の上げ方、手の振り方を教わりました。「逃走中！」では、サングラスをかけた高校生が「捕まえるぞー！」と走りだすと校庭いっぱいに笑い声が響き渡りました。保護者の方々には、侵入禁止の場所に立つガードマン役として協力していただきました。高校生は、「小学生は、すばしっこいな！疲れたー。」と楽しそうに話していました。



【「走り方教室」と「逃走中！」】

〈認知症サポーターキャラバン〉



【認知症サポーターキャラバン】

4年生の「総合的な学習の時間」では、「みんなにやさしい町づくり」の学習で、「認知症サポーターキャラバン」に参加しました。ナーシングヴィラ与野・地域包括支援センターきりしき・中央区役所高齢介護課の皆様の御協力で、高齢者の方、特に認知症の方への見守りや声掛けをどのようにするかを学びました。担任の先生が少年役として参加する劇は、子ども達の笑いを誘いながらも真剣に考えさせられる内容でした。

祖父母と一緒に暮らす世帯が減少する中で、高齢者の方に対する優しい言葉掛けや思いやりのある行動を学習することで、友達とのコミュニケーションの取り方にまで広げて学ぶことができました。

小学生の時期は、人間関係の基礎を学ぶ重要なタイミングです。友達や地域の大人など、家族以外の人との交流を通じて、子ども1人ひとりが周囲から大切にされ愛されていると感ずることができるような経験を重ねることで、安心感や信頼関係を築くことができるのではないでしょうか。

今回は、南区の市立白幡中学校の取組を御紹介します。白幡中学校では、ボランティア活動を推進するため、様々な取組を行っています。

中学生の地域の行事への積極的な参加を促すため、白幡中学校ではボランティア活動を推進しています。令和元年度は、以下の取組を行いました。

〈ボランティア活動推進に向けた取組〉

年度当初に全生徒に対して、ボランティア活動への参加を呼び掛ける「地域の中で働こう ボランティア紹介」を配付し、周知・啓発を行いました。また、地域連携掲示板（学校だより・公民館だより等の掲示板）にボランティアコーナーを設け、ボランティアに関する情報発信の場としました。

学校地域連携コーディネーターが各種団体等のボランティア募集の情報を集め、ボランティア紹介の文書を作成、生徒に配付し、生徒からの申し込みの集約・とりまとめなどを行いました。

さらに、教育委員会で実施している『自分発見！』チャレンジupさいたま事業を紹介する文書を作成、生徒に配付し、周知・啓発を行い、ボランティア活動の意欲付けとしました。



【掲示板の活用】



【地域のおまつりにボランティアとして参加】



【学区内の小学校の催しにボランティアとして参加】

〈取組の結果〉

左上の写真は「調公園ふれあいまつり」で、着ぐるみを着ておまつりを盛り上げる生徒の様子です。また、左下の写真は、「浦和大里小学校PTAふれあいまつり」で工作教室を手伝う生徒の様子です。

情報収集・啓発・情報発信等、丁寧なコーディネートに取り組んだことにより、令和元年度は18回、延べ288名と、多くの生徒がボランティアとして参加し、地域の方と共に活動することができました。また、『自分発見！』チャレンジupさいたま事業ではボランティア活動賞（ブロンズ賞）を2名が受賞しました。令和元年度のボランティア連携先の数は、事業所1、小学校3、公共施設2、地域団体3でした。

令和2年度も学校経営方針の「開かれた学校づくり・豊かな心の育成」の具現化のための取組の一つとして、ボランティア活動の推進に取り組んでいきます。

白幡中学校の取組からは、ボランティア活動を推進するために様々な工夫を行うことによって、生徒が地域に出て活躍する機会が広がっていることが伺えます。

※『自分発見！』チャレンジupさいたまとは…体験活動やボランティア活動等、青少年の主体的な社会参画を促進することを目的として実施しています。ボランティア活動を行った時間数に応じ、表彰状と副賞のピンバッジを受けることができます。

今回は、緑区の市立さくら草特別支援学校の取組を御紹介します。

さくら草特別支援学校では、「ノーマライゼーション社会において、もてる力を発揮し、共に生きる子どもを育てる」を学校教育目標として、様々な交流活動に取り組んでいます。



【今日も元気にこんにちは】

〈近隣地域の方々との交流 —児童生徒によるお手紙配り—〉

児童生徒が学校周辺のお宅を定期的に訪問し、学校だより等のお手紙を直接お届けする教育活動「さくら草タイム」を展開しています。訪問時は、成長ぶりを喜んでいただき励ましの言葉をいただくなど、温かく微笑ましい交流活動となっています。児童生徒一人ひとりがそれぞれ得意な方法でコミュニケーションを楽しむ大切な機会となっています。開校当初から取り組んできた訪問活動を通じて、教育活動への支援体制が深まり、学校応援団の輪が広がってきており、特別支援教育の理解啓発にもつながっています。

〈ボランティアの方々と挿し木 —オリーブプロジェクト—〉

東日本大震災発生直後に開校し、創立10周年を迎える肢体不自由の特別支援学校です。震災からの復興を願い、高等部の生徒が中心となって、福島県いわき市の地域活性化事業「オリーブプロジェクト」に協力するため、校内でオリーブの苗木を育て現地に届けています。地域のボランティアの方々とともに挿し木の作業に取り組み、その後、教室のベランダに置き、車いすで世話をしながらオリーブを見守り成長を共に喜んでいます。高等部修学旅行では、現地を訪問してオリーブの苗木を通したふれあい交流を継続してきました。



【早く、大きくなーれ】



【館岩の雪で自然の教室】

〈南会津町からの雪のプレゼント —雪の滑り台遊び—〉

毎年、2月に南会津町館岩のたかつえスキー場の雪が届きます。町やスキー場関係者の方々、さくら草特別支援学校の児童生徒にも自然体験をさせてあげたいとの思いから実現した体験交流です。大学生や地域のボランティアの支援を受けて雪の滑り台を造り、冷たい雪に触れながらソリ遊びを楽しんでいます。スキーウェアに毛糸の帽子、防寒手袋といった装いで、つかの間ですが冬の自然体験が繰り広げられています。周辺地域の皆様との交流に加え、広範囲な応援団に支えられ、年間を通じて豊かな教育活動が展開されています。

さくら草特別支援学校の取組からは、様々な体験を通じ、子どもたちが心豊かにはぐくまれている様子はもちろん、学校を応援してくれる方々にとっても、ノーマライゼーション社会について理解を深めるきっかけとなっている様子が伺えます。